

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

側弯症装具治療における心理的ストレス変化の追跡

### 2. 研究責任者(当院)

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：木村 弘美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：

代表名：

### 3. 分担研究者

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：大崎 美奈子、中山 敬太、小谷 俊明、佐久間 毅

### 4. 研究対象者

2018年11月1日～2021年3月31日までの間、聖隷佐倉市民病院において〔新規で側弯症装具治療〕を受けた方の内、個別に同意を得た方。

### 5. 研究の必要性

特発性側弯症（AIS）において、Cobb角が20度までは経過観察となるが、20度を超えると装具治療が必要になる。基本、入浴時間以外の装着となり Cobb角による成長が終了するまで継続となる。装具を着けたままの日常生活は何らかのストレスをもたらすことが考えられ、いくつかの研究報告はあるがストレスを判断するための指標が海外のものしかなく日本人に適した評価内容ではなかった。今回、朝田らによる先行研究において、JBSSQ-brace SRS-22は日本人の AIS患者の装具からくるストレスを評価するために作成された。日本人の AIS患者に JBSSQ-brace SRS-22をおこないストレス評価に役立つと述べている。そこで、JBSSQ-brace SRS-22のアンケート用紙を活用（8項目ある質問に選択肢が4つありいずれかに○をしてもらう。選んだ○ごとに点数化）し評価する。装具治療開始1ヶ月後、6ヶ月後、1年後にアンケートをおこないストレス変化を追跡し、ストレスの強さを分析することで装具治療の継続や介入のタイミングの判断に繋がる。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

装具治療のストレスが装具継続や心理的影響との関連分析に役立つ。看護として患児、保護者に対し装具治療時の身体的、精神的な関わりの適切な支援に繋がると考える。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1155

担当者氏名：木村 弘美

対応時間：平日 9:00～17:00

共同研究において専用窓口がある場合

該当なし

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。  
お問合せは、本研究に参加された方と  
研究関係者のみで、その他の方へのご対応  
はできませんので、予めご了承ください。